

Ⅱ 特別シリーズⅡ

科学技術  
振興機構 『さくらサイエンスプラン』 友情と感激

第75回

東京工業大学の活動報告



花村克悟  
(東京工業大学工學院  
教授、TAIST-Tokyo  
Tech運営委員長)

「日・タイ高度人材育成ネットワークの強化のためのTAIST-Tokyo Tech学生交流プログラム」

①プログラムの概要

東京工業大学では、2007年よりタイ国立科学技術開発庁及びタイのトップクラス大学と連携し、TAIST-Tokyo Tech (以下、「TAIST」という)という修士課程プログラムをタイで実施しています。TAISTでは、世界的なレベルで活躍する研究者及び産業界で活躍する高度技術者の養成を目指しています。プログラムは、タイの産業界からのニーズと、本学の強みが合致した、①自動車工学、②組込情報システム、③環境工学の3分野です。TAISTにおいて本学は、教員を派遣し現地で講義を行う、遠隔講義を配信する等、学生の研究指導を行っています。2016年7月までのTAISTの修了生数は214名で、日系やタイ企業を含め、様々な民間企業への就職はもちろん、



副指導教員の研究室で、教員や博士学生の指導を受けながら研究を行った

タイの大学院の大手や研究の所への就職、また本学をはじめとする日本や欧米の大学での博士課程進学へと幅広く羽ばたいています。またこれまでにASEAN諸国からの留学

プログラム	
1日目	成田着、宿泊場所へ案内、利用説明。
2日目	オリエンテーション、キャンパスツアー、研究室配属。
3日目	キャンパスツアー、副指導教員の研究室にて修士論文研究、或いは専門分野別に研究室訪問
4日目	副指導教員の研究室にて修士論文研究、或いは専門分野別に研究室訪問
5日目	本学学生と日本科学未来館を訪問
6日目	副指導教員の研究室にて修士論文研究、或いは専門分野別に研究室訪問
7日目	本学学生と科学技術館を訪問
8日目	休日
9日目	副指導教員の研究室にて修士論文研究、或いは専門分野別に研究室訪問
10日目	企業訪問、副指導教員の研究室にて修士論文研究
11~19日目	副指導教員の研究室にて修士論文研究
20日目	研究成果発表会、修了証の授与
21日目	帰国

講義やインターンシップに参加させるプログラムや、TAIST学生を修士研究における本学の副指導教員の研究室に受け入れるプログラムを実施しています。今般は、その学生交流プログラムの一環として、本学学生との共同研究を通じて日・タイ高度人材育成ネットワークを強化するプログラムを計画しました。JSTのさくらサイエンスプランから一部支援を受け、TAISTの修士2年生10名(タイ人8名、パキスタン人1名、スリランカ人1名)を10月30日~11月19日の間(計21日間)招へいました。プログラム中、TAIST学生は各研究室に配属され、それぞれが研究室で研究活動を行いました。各研究室では歓迎会が行われるなど、温かく迎え入れられました。

滞在中の活動として、キャンパスツアーでは、スーパーコンピュータ(TSUBAME、環境エネルギーイノベーション(EEI)棟、図書館を見学しました。特にスーパーコンピュータ(TSUBAME)に対する学生の関心

生も26名おり、TAIST事業はタイ以外の近隣諸国の人材育成にもつながっています。本学では、2015年度からTAISTを活用した双方の学生交流プログラム(TAIST-Tokyo Tech Student Exchange Program)を開始し、本学学生をタイに派遣し、



花村克悟工学院教授の研究室を訪問



スーパーコンピューターTSUBAMEの見学



合同研究成果発表会のあと修了証を授与



昨年度タイに派遣された本学学生と日本科学未来館を訪問

本学は今後もこの学生交流プログラムを続けていく予定であり、双方方向の活発な交流が継続できる見込みです。また、本学は各機関と協力を継続し、講義を共同指導、その他関連する交流活動に参加し、学生の指導、タイ研究者との共同研究、優秀な学生の本学への進学を促進し、日本とタイ、近隣アジア諸国のネットワークを更に強化します。

### ③ 将来の課題と展望

本学は今後もこの学生交流プログラムを続けていく予定であり、双方方向の活発な交流が継続できる見込みです。また、本学は各機関と協力を継続し、講義を共同指導、その他関連する交流活動に参加し、学生の指導、タイ研究者との共同研究、優秀な学生の本学への進学を促進し、日本とタイ、近隣アジア諸国のネットワークを更に強化します。

が高く、活発に質問がなされました。また、各プログラムに分かれて関連分野（自動車工学・機械力学・運動分野、制御・計測分野、エネルギー分野、組込情報システム・高機能情報システム分野、通信情報システム分野、ヒューマンインターフェース分野、環境工学・無機材料分野、水圏環境、国際開発分野）の研究室訪問を行い、副指導教員や各研究室の学生から研究内容について紹介され、TAIST学生は積極的に質問を行い、自分の受入研究室やそれ以外の研究室の研究内容について、理解を深めることができました。また、日本の進んだ研究や学生たちが熱心に研究に取り組む姿に感銘を受けていました。

休日には、昨年TAIST学生交流プログラムで本学からTAISTに派遣された学生と一緒に、日本科学未来館や科学技術館を訪問し、革新的な技術について体験することができました。本学学生も、英語で積極的にT

TAIST学生と交流し、親交を深めました。また企業訪問として、富士フイルム株式会社小田原サイトの記録メディアの生産工場を見学し、先進・独自の技術や環境への配慮について学びました。

帰国前日となる11月18日には、合同研究成果発表会として、ポスターセッションを行いました。受入教員や受入研究室の学生約30名が来場し、発表者と活発に議論を交わしました。その後、TAIST運営副委員長の奥村学教授により、修了証の授与が行われ、受入教員よりTAIST学生の努力を評価するコメントがありました。

### ② プログラムの成果

このプログラムを通し、TAIST学生は、本学での研究生生活を実体験することができ、新しい科学技術の知識やスキルを習得しながら、研究を進めることができました。また、日本を訪れたこと、日本と接したことで、日本の文化や歴史、日本人の日常生活や考え方を理解し、日本に対する興味を更に深めることができました。また、本学学生にとっても、TAIST学生と交流し、グローバルなネットワークを構築する良い機会となりました。